

感染症・ウイルス検査



グロブリンクラス・ウイルス抗体

コード	検査項目 JLAC10コード	検体量(mL)	容器 (No.)	保存	所要 日数	実施料 判断区分	検査方法	基準値	備考	異常を示す主な疾患	
3607	水痘帯状ヘルペス	血清 各0.3	1	冷蔵	4~7	79 免疫	CF	4未満 倍	判定基準、髄液の 基準値は下表参照	【陽性】水痘帯状ヘルペスウイルスの感染症 (水痘帯状疱疹・髄膜炎など) ワクチン接種後(抗体価の 確認はIgG・IAHAでの測定が 望ましい)	
2714							IAHA	2.0未満(-)			
9331							IgG	2.0未満(-)			
9332							IgM	0.80未満(-)			
3606	単純ヘルペス	血清 各0.3	1	冷蔵	4~7	79 免疫	CF	4未満 倍	判定基準、髄液の 基準値は下表参照	【陽性】単純ヘルペスウイルス感染症 (初感染・再発型・誘発型) 1型:顔、口唇、眼、皮膚、 中枢神経などの上半身の病変 2型:外陰部、尿道の病変	
3704							1型 NT	4未満 倍			
3705							2型 NT	4未満 倍			
9329							IgG	2.0未満(-)			
9330							IgM	0.80未満(-)			
3652	麻疹ウイルス	血清 各0.3	1	冷蔵	4~6	79 免疫	HI	8未満 倍	判定基準、髄液の 基準値は下表参照	【陽性】麻疹ウイルス感染症 (はしか:3日はしか) ワクチン接種後(抗体価の 確認はIgG・PA・NTでの 測定が望ましい)	
3702							NT	4未満 倍			
2715							PA	16倍未満			
9288							IgG	2.0未満(-)			
9289							IgM	0.80未満(-)			
							【麻疹ウイルスIgMの結果における注意事項】 伝染性単核症(バルボウイルスB19 感染)、デング熱、突発性発疹(HHV 6感染)などで麻疹ウイルスIgMが陽 性となる症例があることが報告されて います。診断においては臨床症状お よび他の検査方法を加味し、総合的 に判断してください				
3604	ムンプス ウイルス	血清 各0.3	1	冷蔵	4~7	79 免疫	CF	4未満 倍	判定基準、髄液の 基準値は下表参照	【陽性】ムンプスウイルス 感染症(おたふく風邪) ワクチン接種後(抗体価の 確認はIgG・HI・NTでの 測定が望ましい)	
3653							HI	8未満 倍			
3703							NT	4未満 倍			
9338							IgG	2.0未満(-)			
9339							IgM	0.80未満(-)			
							【麻疹ウイルスIgMの結果における注意事項】 伝染性単核症(バルボウイルスB19 感染)、デング熱、突発性発疹(HHV 6感染)などで麻疹ウイルスIgMが陽 性となる症例があることが報告されて います。診断においては臨床症状お よび他の検査方法を加味し、総合的 に判断してください				
3514	風疹ウイルス	血清 各0.3	1	冷蔵	4~6	79 免疫	HI	8未満 倍	判定基準、髄液の 基準値は下表参照	【陽性】風疹ウイルスの感染症 先天性風疹症候群 ワクチン接種後(抗体価の 確認はIgG・HIでの測定が 望ましい)	
3786							IgG	2.0未満(-)			
3787							IgM	0.80未満(-)			
3615	サイトメガロ ウイルス	血清 各0.5	1	冷蔵	4~7	79 免疫	CF	4未満 倍	判定基準、髄液の 基準値は下表参照	【陽性】サイトメガロウイルス感染症 (初期・既往・回帰感染、再感染)	
3212							IgG	6.0未満(-) AU/mL			6.0以上(+)
3213							IgM	0.85未満(-) Index			0.85~0.99(±) 1.00以上(+)
3632	バルボウイルスB19	血清 各0.3	1	冷蔵	3~5	212 免疫	EIA	0.80未満(-)	0.80~0.99(±) 1.00以上(+)	【陽性】バルボウイルス感染症 (伝染性紅斑・りんご病) 多発性関節炎・胎内感染 重症貧血症・免疫抑制状態 血小板減少症	
3633											IgM

※CF法、HI法、NT法は髄液で測定可能です。検体量 0.4mL 容器 No.35 基準値 1倍未満

ワクチン接種後の抗体価の考え方

一般社団法人 日本環境感染学会 医療従事者のためのワクチンガイドライン
(日本環境感染学会誌 Vol29, Suppl.Ⅲ, 2014より引用・改変)

疾患名	抗体価陰性	抗体価陽性 (基準を満たさない)	抗体価陽性 (基準を満たす)
麻疹	EIA法(IgG):陰性(2.0未満) あるいはPA法:16倍未満あるいは中和法:4倍未満	EIA法(IgG):2.0~16.0未満 あるいはPA法:16~32倍あるいは中和法:4倍	EIA法(IgG):16.0以上 あるいはPA法:256倍以上あるいは中和法:8倍以上
風疹	HI法:8倍未満 あるいはEIA法(IgG):陰性(2.0未満)	HI法:8~16倍 あるいはEIA法(IgG):2.0~8.0未満	HI法:32倍以上 あるいはEIA法(IgG):8.0以上
水痘	EIA法(IgG):陰性(2.0未満) あるいはIAHA法:2倍未満	EIA法(IgG):2.0~4.0未満 あるいはIAHA法:2倍	EIA法(IgG):4.0以上 あるいはIAHA法:4倍以上
流行性耳下腺炎(ムンプス)	EIA法(IgG):陰性(2.0未満)	EIA法(IgG):(±)(2.0~3.9)	EIA法(IgG):陽性(4.0以上)

ウイルス抗体判定基準一覧

(ムンプス、風疹、麻疹、単純ヘルペス、水痘帯状ヘルペス)

判定	IgG (EIA値)		IgM (抗体指数)
	血清	髄液	血清・髄液
(-)	2.0未満	0.20未満	0.80未満
(±)	2.0~3.9	0.20~0.39	0.80~1.20
(+)	4.0以上	0.40以上	1.21以上



グロブリンクラス・ウイルス抗体

コード	検査項目 JLAC10コード	検体量(mL)	容器 (No.)	保存	所要 日数	実施料 判断区分	検査方法	基準値	備考	異常を示す主な疾患
3752	EB VCA-IgG 5F202-1431-023-162	血清 各0.3	1	冷蔵	4~6	212 免疫	FA	10未満		【陽性】EBウイルス感染症 伝染性単核症・上咽頭癌 慢性活動性EBウイルス感染症 Burkittリンパ腫
3754	EB VCA-IgM 5F202-1432-023-162									
3753	EB VCA-IgA 5F202-1433-023-162									
3755	EB EA-DR IgG 5F203-1431-023-162									
3758	EB EA-DR IgM 5F203-1432-023-162									
3756	EB EA-DR IgA 5F203-1433-023-162									
3757	抗EBNA 5F204-1430-023-162									
2544	EB EA-IgG 5F203-1431-023-023	血清 各0.3	1	冷蔵	3~5	212 免疫	EIA	0.5未満(-) 0.5~0.9(±) 1.0以上(+)		
2545	EB VCA-IgM 5F202-1432-023-023									
2546	EB VCA-IgG 5F202-1431-023-023									
2547	EB抗EBNA-IgG 5F204-1431-023-023									

※ CF法、HI法、NT法は髄液で測定可能です。検体量 0.4mL 容器 No.35 基準値 1倍未満

※ グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。ただし、ヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。ヘルペスウイルス・風疹ウイルス・サイトメガロウイルス・EBウイルス・麻疹ウイルス・ムンプスウイルス・ヒトパルボウイルスB19・水痘・帯状疱疹ウイルス同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価測定を行った場合は2項目を限度として算定する。同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。また、ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

検査方法選択のめやす

	感染の診断	ワクチン効果の判定
E B	EBNA、EB-DR VCA-IgM、VCA-IgG	-
R S	NT、CF	-
アデノウイルス	CF、NT	NT、HI
インフルエンザ	HI、CF	HI
サイトメガロウイルス(GMV)	EIA	-
パラインフルエンザ	HI	-
パルボB19	EIA	-
マイコプラズマ	PA、CF	-
ムンプスウイルス	EIA、HI、NT	EIA、HI、NT
水痘帯状ヘルペス(VZV)	EIA、IAHA	EIA、IAHA
単純ヘルペス(HSV)	EIA、CF	-
日本脳炎	HI、CF	HI
風疹	EIA、HI	EIA、HI
麻疹	EIA、PA、NT	EIA、PA、NT

EBウイルス抗体価の推移

抗体価の推移	VCA-IgG	VCA-IgM	VCA-IgA	EBNA	EADR-IgG	EADR-IgA	EA-IgG	EA-IgA
初期感染	急性期	+	+	-	-	+	-	+/-
	回復期	+	+/-	-	+	+	-	+/-
未感染	-	-	-	-	-	-	-	-
既往感染	+	-	-	+	-	-	+/-	-
慢性活動性EBV	+	+/-	+/-	+/-	+	-	+/-	-
日和見リンパ腫	+	-	-	+	+	-	-	-
Burkittリンパ腫	+	-	-	+	+	-	-	-
上咽頭癌	+	-	+	+	+	+	-	+
再感染	+	+/-	-	+	-	-	-	+

※ ペア血清による診断 急性期(発病後早期)と回復期(発病後2~3週間)にそれぞれ血液を採取し、ペア血清として同時に抗体価を測定して、特異抗体価の有意な上昇があるかどうかを確認する手段。一般に、ペア血清の抗体価が4倍以上上昇している場合に有意と判断し、そのウイルスによる感染があったものと診断します。